

1. 日時 : 2015年11月4日(水)16:00-17:30
2. 出席者数 :180名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. カセロネス鉱山について、設備面ではフル稼働が可能な体制が整ったとのことだが、未だ安定的なフル稼働に至っていない要因は？

A. カセロネスの銅精鉱生産については、9月後半から断続的ではあるが、フル稼働での操業を行っている。10月の粗鉱処理量は約150万トンであり、平均して6割程度の稼働率であった。現在、フル稼働の中で発生したいくつかの不具合について調整を行っている段階であり、時間を要する大きな課題は残っていない。11月の処理量は安定的なフル稼働といえるレベルに向けて、さらに増加していくものと考えている。

Q. 油価が低迷している状況下で、石油・天然ガス開発事業の今後のあり方について教えていただきたい。

A. プロジェクトごとに取得時期や取得価格が異なるため、損益分岐点も相違している。損益分岐点が高いプロジェクトについてはコスト削減の実施や売却を検討していくつもりである。

Q. 上流事業における減損リスクについて教えていただきたい。

A. 足元の資源価格だけでなく、将来の価格見通し、コスト削減の織り込み方などによって大きく変わるが、低位な資源価格が長期間継続するという見通しとなれば、減損損失を計上する可能性は一定程度あるものと考えている。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。